# 練馬区立小中一貫教育校推進委員会（第 15 回）　要点記録

| | | |
|---|---|---|
| 開 催 日 時 | | 平成 22 年 9 月 10 日(金)　10 時 00 分～11 時 30 分 |
| 会　　場 | | 大泉学園桜中学校 2 階　会議室 |
| 出席者 | 委　員 | 本木薫、中島広美、諏崎啓美、伊藤照代、下村恭子、中田清、相馬功紀、坂口節子、小川善昭、坂田美由紀、木下川肇、髙島邦夫、伊藤隆、元木靖則、室地隆彦（敬称略） |
| | 事務局 | 新しい学校づくり担当課、教育指導課 |
| | その他 | 教育出版 |
| 傍　聴　者 | | ３名 |
| 案　　件 | | 1　小中一貫教育校の統一校歌の検討<br>2　小中一貫教育資料作成委員会の経過報告<br>3　小中一貫教育校連絡会の経過報告<br>4　標準服検討委員会の報告<br>5　小中一貫教育校の統一校章の検討<br>6　その他 |

## 1　小中一貫教育校の統一校歌の検討

委員長

第 15 回小中一貫教育校推進委員会を開催する。まず小中一貫教育校の統一校歌の検討について、事務局から説明をお願いする。

事務局

大泉学園桜小学校、大泉学園桜中学校の児童・生徒から「校歌に入れたい言葉」を募集した。述べ 245 件の応募があり、キーワードとして集約できるものは整理してあいうえお順に並べた。

児童・生徒から校歌に対する意見・要望や、大泉学園桜小学校、大泉学園桜中学校の教職員から校歌に関する意見をいただいたので、統一校歌の検討の参考としていただきたい。

委員長

最初に教職員の意見、募集結果をもとに校歌に関する考え方を整理したい。参考資料の「１、歌詞について　２、曲について　３、構成について　４、その他」の項目に沿ってご質問、ご意見をお伺いしたい。さらに、子供たちの校歌に対する意見・要望や調査結果も踏まえてご質問、ご意見をいただければと思う。

委員

先生方の参考資料で「歌詞について」の２番目、９年間のイメージをどうやって表したらいいのかとても難しいと思う。それから子供たちが出している「同じ言葉の繰り返しはやめてほしい」というのも、歌いながらそう思っていたのだなと感じる。「４、その他」の「文語調では意味がわかりにくい」は賛成である。特に９年間の成長のイメージを言葉でどう表すのかについて知恵を借りたい。

委員

構成については、１年生から９年生までいるので音域も広いと思う。部分的に２部で歌えるような構成を考えてもらえればありがたい。それから、「２、曲について」の一番下に「しっとりした曲調で」とあり、「３、構成について」の２番目には「簡潔・明快をのぞむ」とある。「簡潔」はわかるが、「しっとりした曲調」で「明快に」というのは難しい。考える方の意向もあるので、もちろんすべては取り入れられないと思う。これは是非というのがあれば、2～3 出していただくのはどうか。

委員

私の意見として、入れなくていい言葉がある。募集結果の 37 番に「武蔵野」というものがあるが、もうこの言葉は校歌には入れなくていいのではないか。武蔵野というのは別にここだけを表わすわけではない。

委員

参考資料の「４、その他」のところに「文語調では意味がわかりにくい」という意見があるが、確かにあまり難しい言葉だと小学生だけでなく中学生も意味がわからないので、できれば避けていただきたい。

委員

歌詞の中に「勇ましい」とか「希望を持つ」「夢を持つ」「やさしく」などの言葉が並んでいるが、これらは具体的な表現ではない。「美しい」のところに「うつくしくむねをはり」という言葉が入っている。別にこれを入れてほしいというのではなく、受動的、副詞的ではなく、「むねをはり」というのは明らかにまっすぐ前を向くという、何か動作が表れるような言葉が入っているとすごくいいような気がする。

つまり、「美しい」とか「明るい」「元気」というのはみんな抽象語である。校歌のイメージとしては、胸を張って正しい姿勢でまっすぐに前を向いているとか、そういう動詞が入っていれば具体的で歌っていてもしゃんとなるのではないか。この「むねをはり」に非常に注目した。

校名の「大泉桜学園」という言葉はなくても良いという意見もあったが、何らかの形で入ると良いと思う。ただ、「小中一貫校」というのが入っていたが、これは入れるのは難しいと思う。

委員長

資料１の「美しい」のところの「うつくしくむねをはり」という、動作が表れるような表現があるといいのではというご意見だった。

委員

資料１の表には、校歌に入れたい言葉が全部で 245 件ある。その中で例えば最初の「あぁ大泉あぁ学園の」という言葉が校歌の中で生きるか生きないかは、前後関係やリズム、曲調など、いろいろな複雑な要素があると思う。今、この言葉だけ言われても、全体的なものが出てこないとはたしてそれがマッチしているのかどうかを判断するのは難しい。言葉としては良いが、そこにはめ込んだ時にその言葉が沈んでしまうのか非常に光るのか、いろいろな要素で変わってくると思う。

そこで、ある程度ピックアップして校歌の原案を作ってもらい、「さあどうでしょうか」という提案でないとわかりにくいのではないか。校歌作成者に作ってもらい、その原案について検討するほうが良いのではないか。

事務局

校歌の検討は非常に難しい。作詞は非常にクリエイティブなものなので、例えば推進委員会で議論してこう変えるとなったときに、作った方が納得されるかという問題がある。作詞の変更自体、いいですよと言ってくれる方がなかなかいないのが実態だ。制作される方もそれぞれいろいろなイメージを膨らませて、一定の流れの中で作詞される。

実はこのあとご提案しようと思っていたが、校歌制作の場合は基本的に、例えば、推進委員会で作るのであれば別だが、そうでなければどなたか専門家にお願いして作ってもらうことになる。少し変更するだけでもなかなか難しい実態があるため、一定のご理解をいただきたい。

特に校歌に入れてほしい言葉や言葉のイメージがあれば、校歌を制作する方に伝えようと考えている。

委員

作詞する人はこの「校歌に入れたい言葉」を机上で見て作詞するわけではないと思う。現地に来て、学校の周りを回ってみて、校舎が建っている周りはどういうイメージなのかといったことも取り入れて詩を作るはずである。そして、曲を作る人もその詩を見て作る。何もないと曲はできないと思う。言葉があるからメロディーも変わってくる。例えば、同じ「明るい未来」でも力強い曲とやわらかい曲ができると思う。

１番から３番を作るのではなく、１番だけでも良いのではないかと思う。区民の方々も楽しみに待っている。

委員長

先ほど、事務局から校歌に対する思いや意見を校歌制作者にどのように伝えていくかについて検討したいというお話があったが、さらに何か補足はあるか。

事務局

その地域や学校のイメージがあるので、基本的には作詞家、作曲家にぜひ学校に来ていただく形を取りたいと思う。作詞、作曲を実際にどなたにお願いするかの人選については、学校側とも協議しながら決めていきたいと思っている。今日、いただいたご意見、子供たちのアンケート調査の結果、それから先生方の意見をどういう形で校歌制作者に伝えるかということだが、方向性が必ずしもはっきりしていない。先ほど１番までというようなお

話があったが、何番まで作るのか、どう依頼するのかについて方向性を出しながら作詞家、作曲家にお願いしないと出来上がってくるものもだいぶ違ってくる。

いただいたご意見をベースに学校と調整のうえ、歌詞について、曲について、構成についてはこういうものを、その他の点はぜひこのような形で考えてほしいというものを伝えたい。また、学校の状況をわかってもらうために今の桜小学校、桜中学校の学校要覧などを渡すのも一つの方法かと思う。

委員

将来、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と行って、いろいろな校歌が頭に浮かぶときに、どこの校歌かわからなくなるので学校の名前は入っていたほうが良いと思う。

委員長

他に統一校歌全般についての意見、ご質問はないか。それでは、今日いただいたご意見を参考に、事務局と学校で考え方を整理して校歌の制作者にお伝えし、併せて、制作者にお渡しする資料については事務局と学校で調整のうえ、校歌に入れたい言葉の募集結果などを参考資料としてお渡しするということで良いか。もしよければ拍手でご承認いただきたい。

〔拍手〕

次に小中一貫教育資料作成委員会の経過報告に移る。事務局から説明をお願いしたい。

## ２　小中一貫教育資料作成委員会の経過報告

事務局

この小中一貫教育資料は、練馬区が小中一貫教育を始めるということで、昨年度からせっかく９年間の教育をするのだから練馬区の子供たちの実態を見て、練馬区の子供たちに必要な教育をできるようにしたいということで考えたものである。具体的にその内容は、「（１）ねらい」に書いてあるように、「表現力の育成」、「心の教育の推進」、「体力の向上」、「キャリア教育の推進」である。

「キャリア教育」というのは、望ましい勤労観や職業観など、これから先の将来を見据えて学んでいく学習である。９年間を通して、この四つが練馬区の子供たちに必要だということで、それぞれ授業を展開できるように準備に取り組んでいる。

「（２）構成」に移る。今、作っているのは（１）の四つの内容に関する教師用の資料と、実際の授業で子供たちに配る児童・生徒用の資料である。国語、算数、社会、理科とさまざまな教科の学習があるが、この四つの内容については、およそ特別活動、あるいは「表現力」であれば総合的な学習の時間や国語、生活科などの教科の中でこのプログラムを使うことになる。「心の教育」は道徳や特別活動の時間を使って指導していく。「体力」は体育が中心となる。「キャリア教育」は主に総合的な学習の時間の中で指導することを考えている。

実際にこの指導内容を作るにあたっては、大泉学園桜小・中学校の先生はもちろん、練馬区の大変多くの小・中学校の先生方、校長先生、副校長先生にかかわっていただいている。また、それぞれの部会には現場の先生や管理職の先生方だけではなく、学識経験者にも入っていただき、検討している。

「２　事例一覧（９月１日現在)」では、この四つがどのような内容なのかがわかるようになっている。例えば、「表現力の育成」で言えば、表現力と言ってもいろいろな表現力がある。ここに書いてある「ア　調べる力」「イ　組み立てる力」「ウ　表現に関する技能」を身につけさせ、「エ　態度・相手意識」を育てる。「心の教育」「体力の向上」「キャリア教育」も１年生から９年生まで系統的に積み上げていくことを考えている。

今までは小学校が６年、中学校が３年ということで、それぞれ一生懸命やってはいるが、つながりの部分があまり意識されてこなかった。したがって、こういうプログラムを作ることによってそれを意識させ、１年生から９年生まで継続的に指導していくことを考えている。

「３　学習指導案例（キャリア教育の推進部会)」を見ると、例えば、子供たちが望ましい職業観や自分たちの生き方を考える学習をするために、まずは１年生の生活科で自分を取り巻く身の回りの事象への関心を持たせる。そのために、今までは小学校１年生は最初に小学校の学校探検などを行うが、一貫校になったのだから１年生から９年生までがいる学校の中を探検してみて、身の回りの事象に関心を持っていく。

このように１年生の時から先を見据えて授業展開をしていくことを考えている。大泉桜学園では、このプログラムを年間の計画に入れて、来年度４月から実施する予定である。

ただ、このプログラムは大泉桜学園だけで使うのではない。大泉桜学園での成果を見つつ、全小中学校に配布して活用していく。練馬区は長期の計画の中ですべての小中学校で小中一貫教育を進めていくことを考えているので、このプログラムを使って全小中学校で展開していくことを考えている。

委員長

小中一貫教育資料作成委員会の経過報告について、ご質問、ご意見があればお願いしたい。

委員

細かい部分はまだこれから先生方に決めていただけると思うが、「キャリア教育の推進」のところで、７、８、９学年の部活動と職場体験、リトルティーチャーはあまり以前と変わっていない感じがする。もっと新しい何かを考えていただけたらと思う。

事務局

確かに「部活動体験」とだけしか書かれていないので、そのように見えると思う。ただ、この中身は今まで以上に、勤労観や職業観を体験を通してどのように育んでいくのか、授業の中でどう展開していくのかについて具体的に考えている。確かに部活動体験は今までもやっているので、今までと同じ展開では意味がない。下からの積み上げでやってきているのであればどういう部活動体験になるかを意識し、残り後半のプログラムを作っていきたい。

委員長

その他、ご意見、ご質問はないか。

委員

教育委員会でこうした４本柱を立てて教育の骨子となる計画を策定していただくことは、一貫校を進めていく私たちとしても大変心強い。ただ、現実に一貫校を来年４月から開校させる立場の者としてもう少し具体的に説明すると、例えば桜小中学校の子供たちは、既に部活動体験ではなく本入部として参加している。それから、キャリア教育についてのエピソードを桜小学校の教員からお聞きして感動したので、ここでご紹介させていただく。

小学校は５年生で稲作体験をする。秋に稲を収穫して籾殻を干すとスズメがつついて、数粒か数十粒、パラパラッと籾が落ちてしまう。それを桜小学校の子供はもったいないと言って一生懸命拾っている。つまり、普段はご飯を残したりしても無頓着だが、自分たちが栽培した稲の収穫では籾殻をもったいないと言って捨てようとしないというのである。子供の意識が稲作を通して深まっていることがよくわかる話ではないでしょうか。

新しい一貫校では水田をより大きく拡張し、より本格的に稲作に取り組む。稲作は教育課程では５年生の社会科の授業の一環としての体験だが､キャリア教育に結びつけていく。つまり、籾殻のお話にもあったように、働く尊さ、穀物の尊さ、そして命をつないでいくという命の教育、そこに発展させていくことで勤労の尊さだとか、自分が今後、社会の構成員として役に立つにはどうあるべきか、そういうことを考えていきたい。

そのように小中一貫校のキャリア教育を、より体験的により追究的に考えているので、内容についてはまたどこかで PR したいが、そうなると地域の方々の協力も必要になる。地域の方々が学校に来て、子供たちが社会のメンバーの一員として働く姿や地域に貢献することについて考えている姿を見てもらいたい。

委員

第Ⅱ期のところで５学年、６学年、７学年となっている。例えば緑小から桜中に入った場合はⅡ期の途中から入ることになるが、違和感はないだろうか。

事務局

この学校だけが小中一貫教育を進めていくとなると、やはり外から来た時にかなり違和感があると思うが、来年度からはすべての小中学校で、本格的に小中一貫教育を進めていく。練馬区では基盤となるところがすべて小中一貫教育になるので、さほどその心配はないかと思っている。

委員

来年度からは緑小の子供も部活を予定しているのか。

事務局

部活については別である。これからもそういった個々の取組みについては違いが出てくる場合がある。小中一貫教育を進めていく中でも、取り組んでいく活動は学校によって異なる。この学校は一つの学校になるので、部活についても先ほどご案内された通りの活動ができる。離れている場合には実際そういう活動はできる場合もあるが、立地条件によってはなかなか難しい。

委員長

ほかにご意見、ご質問はないか。それでは今日いただいたご意見を踏まえて、引き続き小中一貫教育資料の検討を進めていただきたい。次に小中一貫教育校連絡会の経過報告について、大泉学園桜小中学校から説明をお願いしたい。

## ３　小中一貫教育校連絡会の経過報告

委員

小中一貫教育校「大泉桜学園」学校説明会及び「大泉学園桜中学校」新入生保護者説明会のご案内である。大泉桜学園が新しい学校としてスタートするにあたって、区当局が計画にもとづいて説明会を別途用意しているが、例年、中学校は 10 月に近い時期に中学校学区域の選択自由化に伴い、新入生対象の保護者説明会を集中的に行っている。今回は来年度、大泉桜学園が開校するので、まずその大泉桜学園の学校説明会を桜小中学校で PR も兼ねて行いたいということで実施する。第一部で大泉桜学園の特色を PR して、併せて第二部ではいわゆる中学校の部として、現在の大泉学園桜中学校の紹介と、今後の一貫教育校としての学校生活をお話しするということにしている。両校の教員が力を合わせて学校の特色を訴え、ご理解賜りたいという企画である。

対象が中学校の学区域ということで、大泉学園桜小学校と大泉学園緑小学校、併せて桜中学校の全保護者を対象にしている。もちろんお子さんにも来ていただいて、内容を知ってもらいたいと思う。現在準備中で、この推進委員会をお借りしてそういう企画があることをまず PR させていただく。

現在、一貫教育校としての具体的な内容や形がだいぶ見えてきたので、学校説明会ではそのことをいろいろ工夫して説明しようと思っているが、それに先立ち推進委員会で一定の説明をすることでご報告に代えたい。記書き以下、日時・場所は記載の通りである。

第一部では小中一貫教育校「大泉桜学園」の特色をアからキまで考えている。学校目標である「桜学精神」および「命の教育」については既に推進委員会で申し上げたので、本日は説明を割愛する。

イ「その日の授業はその日の内にわかるまで教える学校」という高い理想を掲げ、学校は学ぶ場だから子供たちに達成感を持ってもらいたいということで、とことん授業で勝負する。しかし、子供によって理解の差があるが、実際にその日のうちにわかるまで教える学校を目指していかなければいけない決意と覚悟がここには込められている。これはスロ

ーガンだけで終わるということではない。やはり具体的にそれを担保するものがなければいけない。区教委のご理解とご協力もあって、個別学習室を３教室準備し、そこでの補習を中心としたいわゆるフォローアップ学習システムを現在構築中である。マンツーマン、フェイス・トゥ・フェイスで補習をすることもできるし、パソコンソフトを使って自学自習ができるシステムも今、準備中である。「その日の授業はその日の内に分かるまで教える学校」というのはそういうことである。

ウ「言語能力を高める教育活動（古典教育の重視と外国語活動の早期導入など）」ということで、古典教育の重視と外国語活動の早期導入を現在準備中である。私たちは常に言葉をもって物事を考えているので、言語能力がつたなければより高いレベルの思考判断はできない。したがって、言語能力を高める教育活動を学校、地域、家庭にもお願いして取り組みたいと考えている。子供たちの言語環境を整えることは喫緊の課題なので、そのことは学校からも地域や家庭に発信していくのでご協力いただきたい。

具体的にはその中核となる取り組みとして、古典教育に注目している。家庭でも学校と同じ基盤で考えていただきたいので､子供と保護者が楽しく取り組めるような活動を考え、百人一首がこの学校の特色となるように、ひいては地域の皆さんと一緒に楽しみながら古典の世界に触れ、いにしえの人々の感性に触れたり美しい言葉を獲得していくような活動ができればと思っている。百人一首は発達段階もあるので、１年生や２年生の子供たちには日本古来の「いろはかるた」の言葉をただ言葉として覚えるだけでなく、いろいろな生活の知恵などを学びながらの言語活動を考えている。なお、古典の重視は新しい学習指導要領でも小学校からあるが、より具体的に先取りしていけるような学校を目指している。

外国語活動については、新しい学習指導要領で小学校５、６年生から示されているが、新しい大泉桜学園においては、３年生から取り組みたいと考えて現在、準備中である。

委員

エ「５、６年生からの教科担任制の導入」について、ここでは入れていないが、今、算数は２クラス２人の担任と算数の少人数担当の教員３人で指導している。講師を活用し、学年を４ないし５のグループに分けて、少人数で指導する準備をしている。これについては人的配置もあるので、区にお願いしている最中である。

５、６年生からの教科担任制だが、社会科と理科を中学のような教科担任にする。２クラスあれば片方の担任が両クラスの理科を教え、もう１人が社会を教える。こうすると教科が一つ減るので、十分に教材研究をしてより専門性を発揮した指導ができることを考え

ている。国語は担任が、算数は少人数で、社会と理科は教科担任ということになる。外国語活動は、早期に導入する。その場合、中学の外国語の講師の先生にも力を借りて、担任と一緒にやっていこうと考えている。

オ「９年制義務教育学校の新しいスタイル」では、一貫教育校だからできる行事や教育活動をたくさんやりたいと考えている。入学式、卒業式、運動会、学習発表会、音楽会は１年生から９年生、従来の小中が一緒にやる。入学式は１年生と７年生が、卒業式は６年生と９年生が一緒に行う。入学式は４月７日、卒業式は３月 19 日に行う。そうすると従来、小学６年生は 25 日まで学校があったので、19 日に卒業した後、例えばプレ７年生という感じで授業は引き続き行うようにして、学力をつけて滑らかに７年生に入ることも考えている。

運動会は、工夫して１年生から９年生まで一緒に行いたい。学習発表会は従来の小学校の学芸会に近いものだが、内容をそのまま引き継ぐのではなく、内容を検討している。音楽会は小学校には今までなかったが、中学の合唱祭の中に１年生から６年生を入れて一緒にやりたいと考えている。なお遠足だが、今までは６年生を中心とした縦割りで行っていたが、今度は４年生を中心に今まで行っていた大泉中央公園の遠足、５年生以上は縦割りの遠足を計画中である。

カ「新しい学校の標準服や一日の時程・委員会・生徒会・クラブ・部活動など」については校則も一部入れることになり、これを学校説明会の時に具体的に説明していこうと思う。実はこの 10 月９日は、桜中は学校公開で勤務日になっている。学校は休日だが、教員から「こんなに良い学校を作ろうと一生懸命やっているのだから、自分たちは休日でも説明に出る。単なる従来の中学の説明会ではなく学校説明会にしないか」という声があり、実現した。今、これに向けて既に準備を進めている。

先日、来年度の新１年生の保護者が、桜小学校に子供を入れると実験に使われるので、桜小学校には入れたくないと近隣の学校を見学したという話を聞いたが、実験するわけではない。だからこそ情報を発信し、来年２月にも考えているが、早めの説明会が必要だなと実感した。地域の皆様、委員の方には、町で誤解するような声を聞かれたら、ぜひ説明していただけるとありがたい。

委員長

小中一貫教育校連絡会の経過報告について、ご質問、ご意見があればお願いしたい。

委員

分からないことがある保護者がたくさんいらっしゃると思うので、ぜひお願いしたい。

委員

説明会に足を運んでもらえるように工夫したら良いと思う。

委員

前回は講演会を前面に出した説明会になっていたので、少し分かりにくかったのかなとも思う。

委員

桜小学校と桜中学校が主体的に行うもので、その責任も両校にあるので教育委員会とは切り離して考えていただいて結構である。いただいたご意見は、参考にさせていただいて多くの方々に関心を持って説明会に参加していただけるよう、コーディネートしていきたい。また、保教の会の皆さんに周知していただけると助かる。

**４　標準服検討委員会の報告**

委員長

次に標準服検討委員会の報告を大泉学園桜小中学校から説明をお願いする。

委員

標準服検討委員会を桜小学校副校長に委員長をお願いして進めてきた。メンバーには両校の保護者の皆様にも参加していただき、大変ありがたく思う。

９月１日付で「小中一貫教育校の標準服について、小中一貫教育校標準服検討委員会において検討しましたので、下記のとおりご報告申し上げます」とある。記書き以下、検討結果にはアンケートの結果も付記されているが、そうしたことについていろいろご意見を伺った。委員会からは本日、この会場に展示されている紺色のブレザー、アンケートでＡとＢに分けてあったが、Ｂのブレザーということでご報告いただいた。委員会でも慎重に協議していただいた結果なので、両校長もＢで参りたいと考えている。

なお、その他の意見には課題があり、今後、細部にわたり検討していく予定である。例

えばブレザーについては、同じ紺色でもいろいろな種類や染め具合があり、検討委員会のメンバーの方々は大変苦労したと思う。選ばれたものはすごく発色のいい、品のいい紺ではないかと喜んでいる。スカートのチェック柄もとてもよいと思う。「桜」という校名を戴いている学校なので、非常に品のいい桜色がネクタイやスカートの模様の中に込められていると思っている。チェック柄の選定にあたり、イメージを形にしていただけたと考えている。

例えば、ネクタイの柄などの細かいところについては、もう少しサンプルを検討して最終決定を見たいと思う。今、ブレザーの下にベストを着るタイプになっているが、ベストの色や品質もまだ課題なので、近日中に結果を出したいと考えている。靴下なども標準服と見合った色を考えていかなければいけない。９月 27 日にもう一度、検討委員会を開くので、そこで協議したものを反映させて今後に結びつけたいと考えている。

細かく言うとブレザーのボタンも、展示してあるものは二つボタンだが、協議している時には三つボタンにするかどうかもずいぶん悩んだ。今はマネキンに着せてボタンをしめているが、通常、子供たちははずしていることが多いので、はずした時の状況などを考えると、むしろ二つボタンのほうが良いのではないかなど、そういう細かいところまで協議している。ぜひ多くのお子さんたちに着ていただけるよう、１年生から６年生までについては推奨していくので、ご理解とご協力を賜りたいと思う。

コストパフォーマンスについても、素材や縫製は入念に研究されたものである。当然、自宅で洗たくができることも含めて、トータルで考えると私服よりも維持費などについて十分、低額に抑えられるのではないかと受け止めている。

## ５　小中一貫教育校の統一校章の検討

事務局

前回、検討した統一校章のデザインに関係する資料を今日机上配布した。前回の推進委員会でこのデザインについて、補正等、学校と調整の上ということで一定のご了解をいただいたところだが、これまで学校と調整してきた経過をご報告し、ご意見等あれば承りたい。

デザインのベースとしては、年輪と球体を前回の委員会で決めていただいた。補正した部分は木の年輪と球体の角度である。年輪の上のほう、45 度ぐらいで切れているが、右の切り口のラインと三つの球体の中央線を平行にする形で補正した。

桜の文字を白抜きにした場合と、色を入れた場合、周りの年輪との関係でどのような感じになるか、判別がつくのかつかないのかということがあったので、両方提示させていただいた。さらに、掲揚用の校旗にした場合はどのような感じになるのか、バッジにした場合にどのような感じになるのかをご提示した。

委員長

小中一貫教育校の統一校章についてご質問、ご意見があればお願いする。

委員

バッジの形は四角なのか。

事務局

コンセプトのところにも書いてあるが、丸よりも四角のほうが広がりをイメージしやすいということで、学校との協議の中では四角いバッジのほうが良いのではないかということになっている。その辺については、丸のほうが良いというご意見も含めていただければと思う。

委員

統一校章のデザインが固まってきた。年輪が９本あって、４・３・２の球体があって、球体も宇宙空間に広がっていくような無限の可能性が感じ取れ、当初からするとかなり良くなったと思う。これまでにはない校章であると思っている。形としてのデザインは良いと思うが、実際にこれを校旗やバッジにしていくとなると、まだ検討の余地はある。

例えば、バッジの際の大きさや形はどうか。形を丸にした場合、丸のままくり抜くとちょっと５円玉のような感じになってしまうので、枠があったほうが球体の宇宙空間的なものも出てくると思う。背景の紺を映えさせるとなると、通常は七宝焼きになり、七宝焼きにすると球体の外側にまた一つ枠が出る。デザイン案としてはこの形を尊重してもう少し検討していきたい。

このデザインはすべて曲線を中心として描かれているが、三つのつながりや年輪のつながりなどには実は直線が隠されていて、新しい一貫校には斬新で良いのではないか。また、児童生徒がいろいろな学校行事の時に自分たちの手で書くとなると、桜の白抜きを桜色にしても良いかと思う。そこは「これしかない」のではなく、もっと自由に、汎用度の高い

形を考えていけば良いのではないか。基本があり、ここからいろいろ発展させて活用する方法があると考えている。

委員

前回はこれにきれいな色がついていたので、モノクロになるとまたずいぶん感じが違うなと思った。それから今のお話を聞くと、色合いなどはまだこれから検討していくという受け止めで良いか。

委員

色合いについては、例えば年輪の部分を前回のように緑に置き換えると、ちょっと蚊取り線香のようなイメージにもなりかねないので、私たちはこのモノクロを基本と考えている。ただ、例えば金の刺繍のある立派な校旗の時には、旗屋さんが金色を使ったり、あるいは金色だけでは映えないのでバックの色を少し変えるなどして、汎用度を高めていく。旗の制作の場合もケースバイケースで、少し色を入れることも時には出てくる可能性はあると思う。つまりこのデザインが工夫によってより生かされる可能性は十分あるとご理解いただきたい。

委員長

小中一貫教育校の統一校章については事務局と学校で調整のうえ、進めていただきたい。

## ６　その他

委員長

本日の案件は終了したが、全般にわたって何か言い漏らしたことがあればご発言いただきたい。

委員

部活動に小学生が参加しているが、部活動の帰りが遅いという声が６年生のお母さんからあった。クラブ活動の時間は決まっているのか。部によって違うなどの話があったので、もし決まっているのであれば説明会の時に説明していただきたい。

委員

それはカの「一日の時程」の中で説明できるかと思う。

委員長

次回予定している案件について事務局から説明をいただきたい。

事務局

次回は、11 月 1 日になる。実施計画として開校準備のまとめの時期にさしかかり、その案を出させていただき検討を始めたい。

委員長

次回の第 16 回推進委員会は平成 22 年 11 月 1 日月曜日の午後 2 時から大泉学園桜中学校 2 階会議室で行う。開催通知は後日お送りする。

以上で第 15 回小中一貫教育校推進委員会を終了する。